

学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（生野区）

1 目的

本市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。

地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。生野区では、平成27年度から区内東側にある5つの中学校（大池・東生野・巽・新生野・新巽）で、平成31年度からは区内東側にある7つの小学校（東中川・小路・東小路・巽・北巽・巽南・巽東）で学校選択制（特定地域選択制）を実施し、令和4年度からは生野区全域を対象としています。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒も増加し、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

つきましては、導入時の「熟議」や「就学制度の改善」において期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時の「熟議」や「就学制度の改善について」で期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目を全区共通の調査・分析の視点として設定しました。

【視点①】学校選択制の満足度はどうか

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか

【視点④】特色ある学校づくりが進んだか

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか

【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

3 調査・分析データ

大阪市では、平成26年度の制度導入より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和3年度に学校選択制導入の区内市立小・中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施。

地域団体関係者アンケート＝区内の令和3年度学校選択制導入の市立小・中学校学校協議会委員を対象に実施。

【学校状況調査】

区内の令和3年度学校選択制導入の市立小学校・中学校を対象に実施。

【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

【保護者アンケート】

令和3年5月下旬に各区役所から学校を通じてアンケートを保護者に配付（学校からの配付基準日：5月18日～28日）。

回収は区役所あて6月9日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

【地域団体関係者アンケート】

令和3年5月中旬に、学校を通じて、学校協議会委員に配付し、回収。

【学校状況調査】

令和3年5月中旬に、対象の学校に1枚の調査用紙を配付し、回収。

5 アンケート回収状況

（保護者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
小学校	370	168	45.4%
中学校	414	177	42.8%

（地域団体関係者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
学校協議会委員	55	43	78.2%

（学校調査）

	配布数	回収数	回収率
小学校	7	7	100.0%
中学校	5	5	100.0%

6 調査・分析結果

3ページ～26ページのとおり

※本報告書の構成について

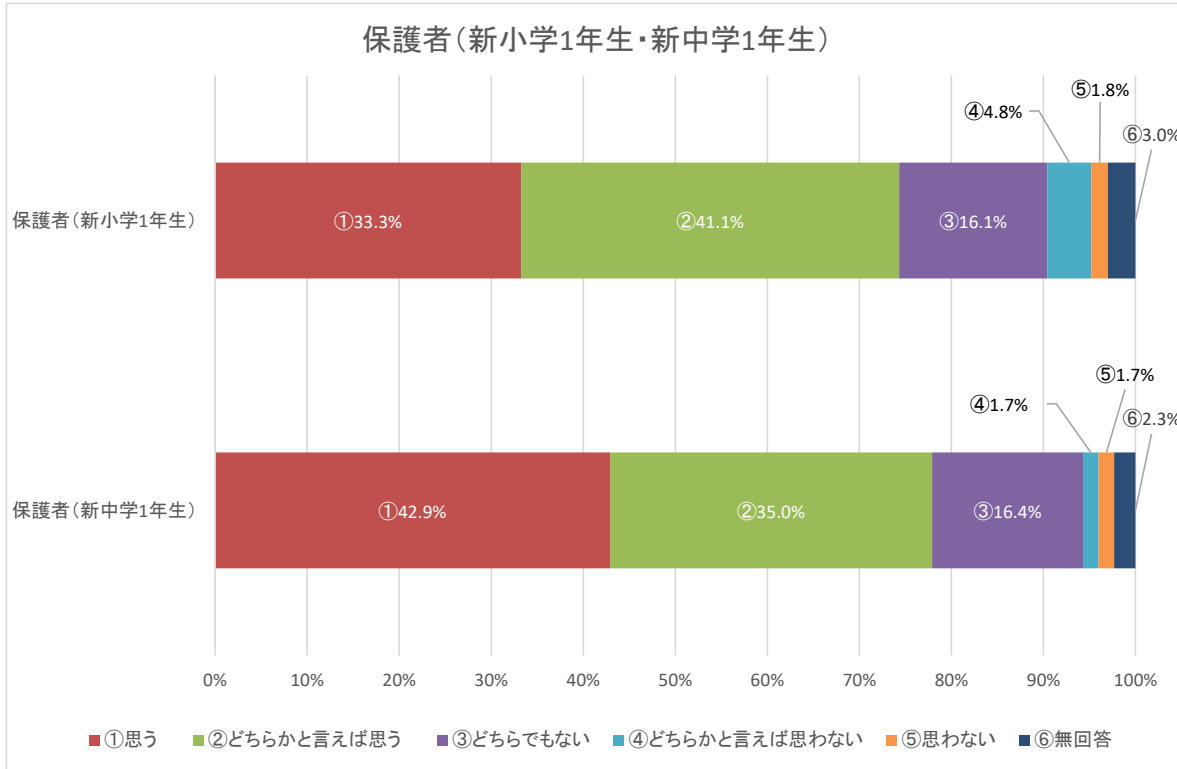
本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しております。各アンケートにおける、結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。

調査・分析内容

【視点①】 学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。
【保護者アンケート(新小学1年生):問20、保護者アンケート(新中学1年生):問27】<1つだけ回答>

ア)全体



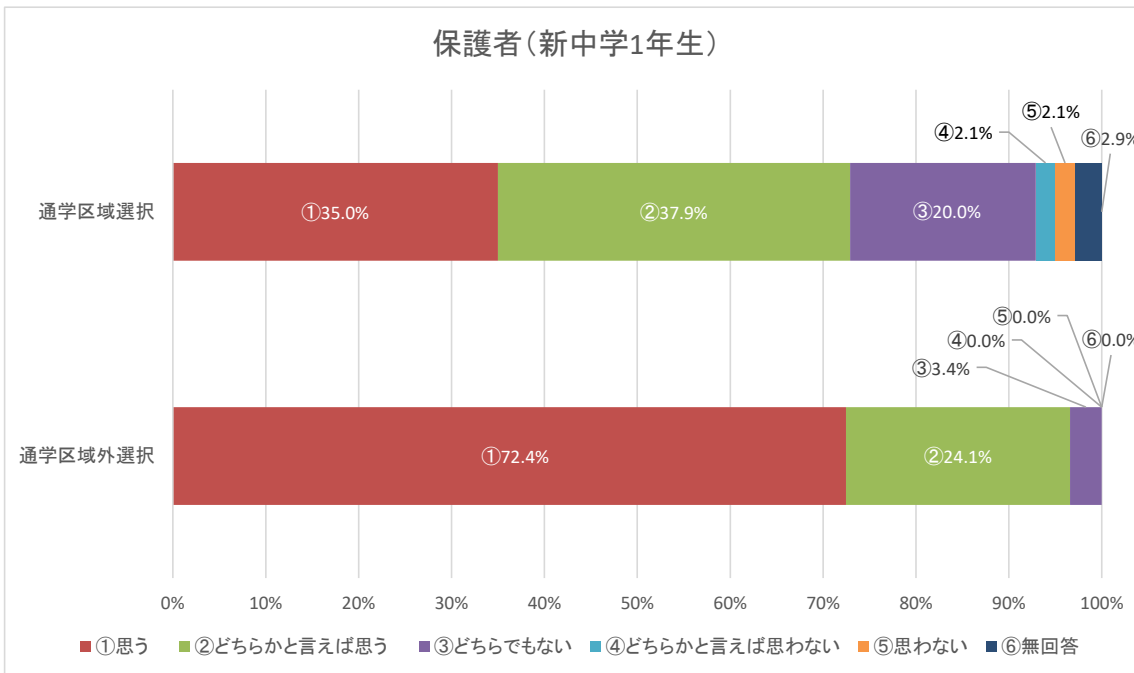
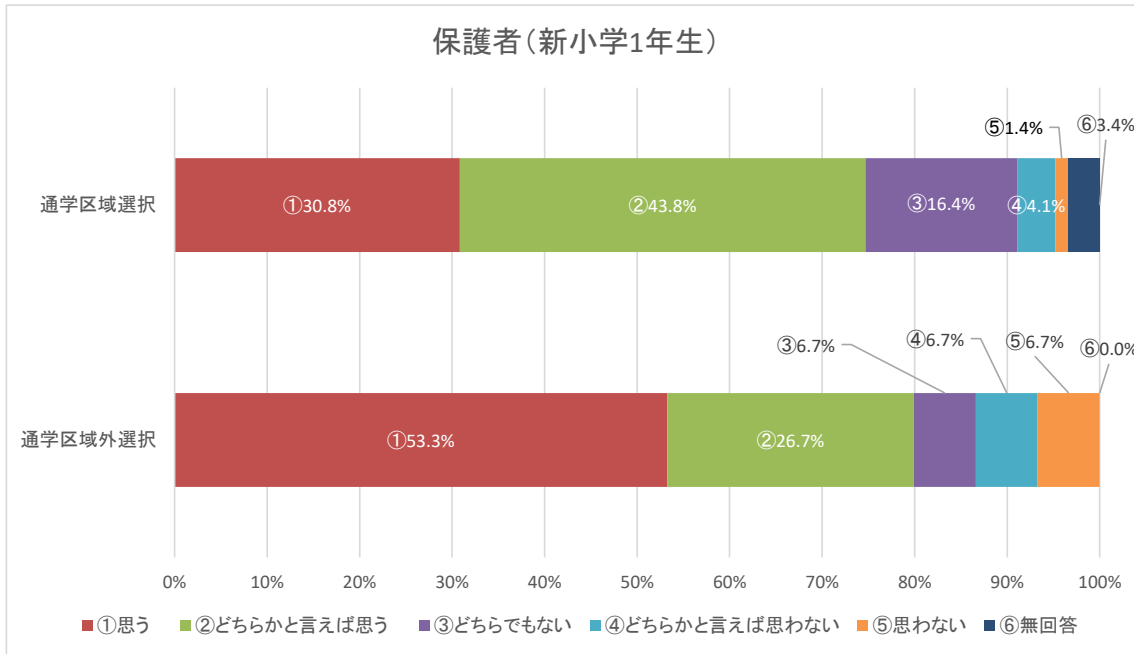
(分析)

「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が新小学1年生保護者で6.6%、新中学生1年生保護者で3.4%となっているのに対して、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答の割合が新小学1年生保護者で74.4%、新中学1年生保護者で77.9%となっており、学校選択制を肯定的に思っている割合が高かった。

【理由】

- 「思う」「どちらかと言えば思う」と回答された方
 - ・居住地区によって、教育が限られるよりは、選択できる方が平等だと思う。
 - ・通いやすい学校、やりたい部活などで学校を自由に選べる制度はとても良いと思います。
 - ・校風や学校など自分が行きたい学校を自分で選んで行くというのが素晴らしいと思います。
- 「どちらでもない」と回答された方
 - ・選択出来る学校が区内と決まっていれば、教育や自由度など、特に何も変わらないと思う。
 - ・制度としてはよいと思うが、それが実際の教育現場に生かされているかどうかはわからない。今のところ生かされているとは感じない。
 - ・特別な理由がない限り選択をする必要性がないと思う。小学6年の子供に選択させるのは少し難しいと感じた。
- 「思わない」「どちらかと言えば思わない」と回答された方
 - ・人気のところに人が集中し、人気のないところは1クラスしかいないため。
 - ・学校区外など子供が増える事で子供たちの遊ぶ範囲も広くなり、親としては心配な所もある。
 - ・人数が偏ったり、遠くなったり小1にはリスクがあるように思う。

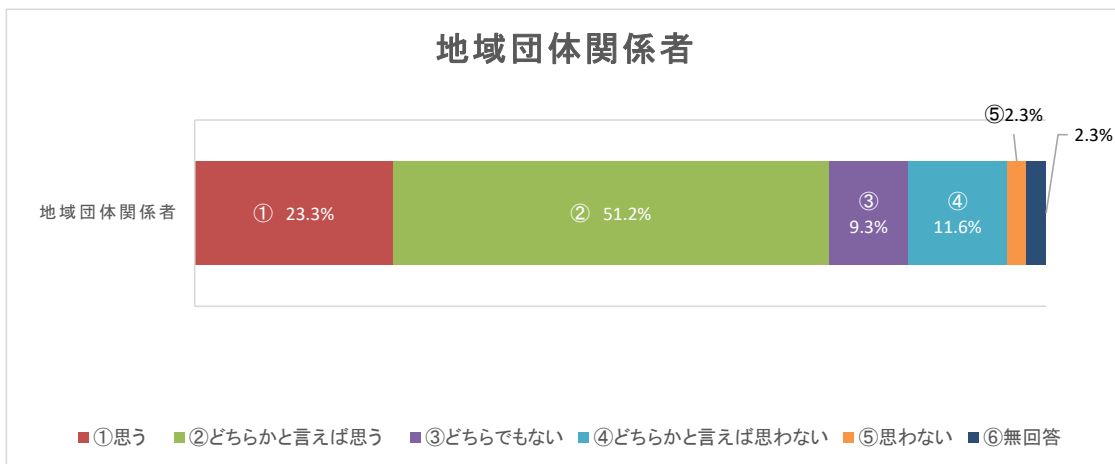
イ)通学区域・通学区域外別



(分析)
 「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答した割合が、通学区域の学校を選択した新小学1年生保護者で74.6%、新中学1年生保護者で72.9%となっているのに対して、通学区域外の学校を選択した新小学1年生保護者で80.0%、新中学生1年生保護者で96.5%となっており、通学区域の学校を選択した場合に比べ、通学区域外の学校を選択した方が、学校選択制をより肯定的に思っている割合が高かった。

②学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問6】<1つだけ回答>



【理由】

○「思う」「どちらかと言えば思う」と回答された方

- ・学校を選べる事で教育に感心が高まる。
- ・友達が増え、それが将来的にも有意義なものになると思う。

○「どちらでもない」と回答した方

- ・選択した人にとっては、良い事だと思いますが、受け入れる側として、本来皆が参加している（家のある所）の地域の活動には参加していないので交流がない。
- ・判断しがたい。

○「思わない」「どちらかと言えば思わない」と回答した方

- ・学校教育の向上を図る理由で選択しているなら、保護者の都合で選択出来るのはおかしいのでは（仕事場が近いなど）。
- ・中学校は子ども自身の考えを聞いての選択だが（クラブ等）、小学校入学に関しては親の思いだけであって良いとは思わない。

（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答した割合が74.5%となっており、学校選択制を肯定的に思っている割合が高かった。

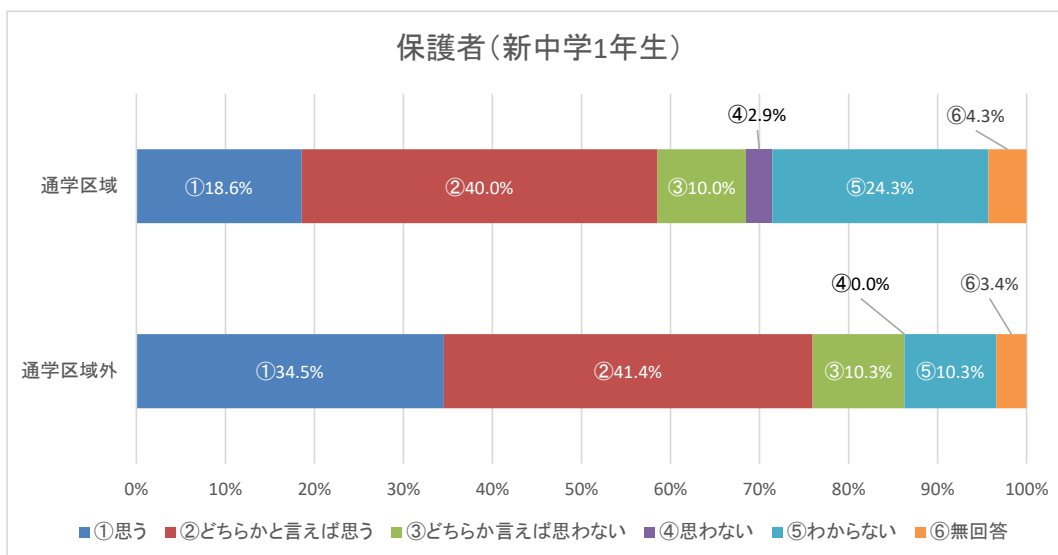
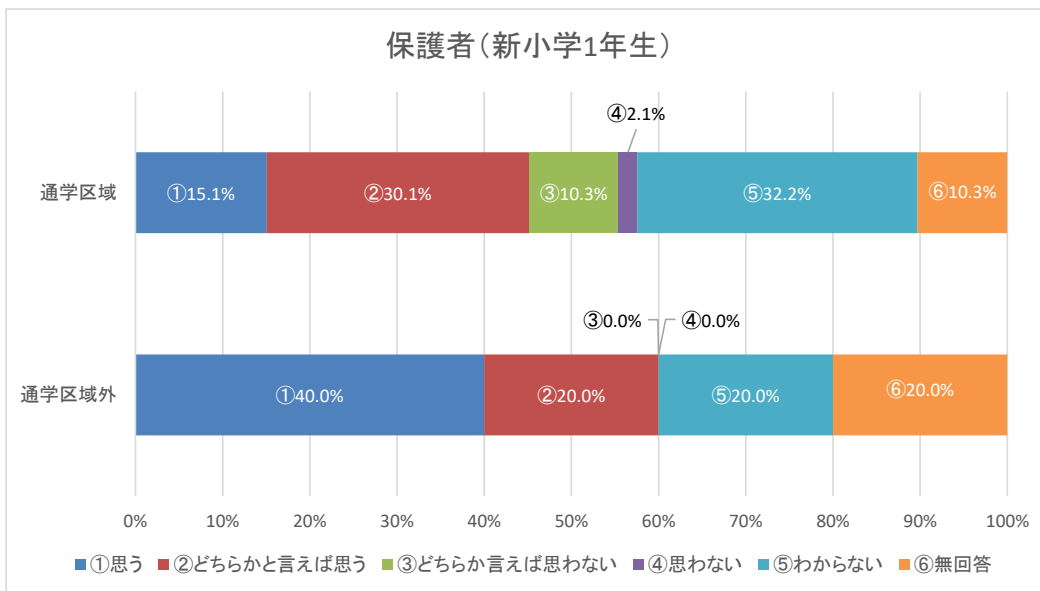
【視点①総括】

大半の保護者・地域団体関係者は学校選択制を肯定的に受け止めていたが、学校により児童・生徒数が偏るといった意見が多くあった。また、学校教育に生かされていないと指摘する意見もあった。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問18、保護者アンケート(新中学1年生):問22】<1つだけ回答>



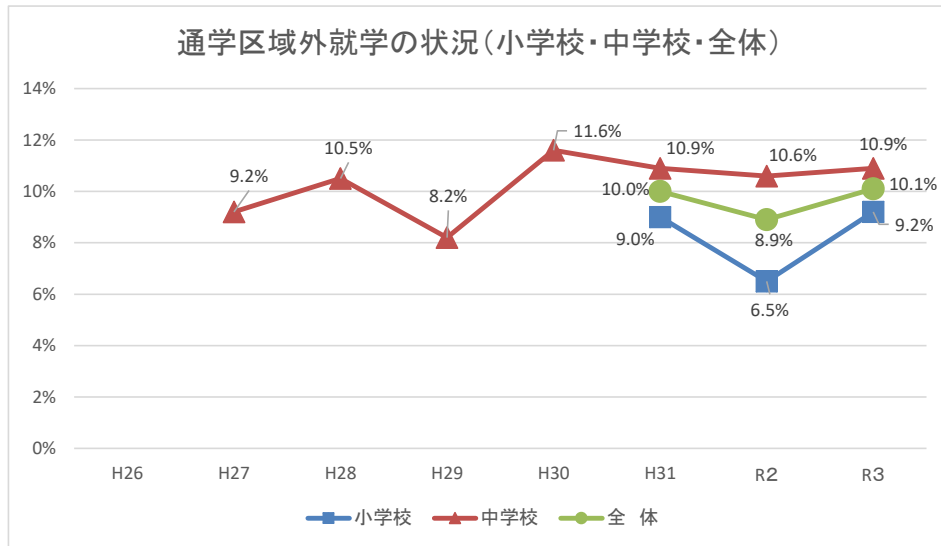
(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答した割合が、通学区域を選択した新小学1年生保護者で45.2%、新中学1年生保護者で58.6%、通学区域外を選択した新小学1年生保護者60.0%、新中学生1年生保護者で75.9%となっており、小・中学校及び通学区域・通学区域外を選択のすべてにおいて、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合を上回った。また、小学校に比べ中学校の方が、通学区域を選択した場合に比べて通学区域外を選択した場合の方が、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると思っている割合が高かった。

②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



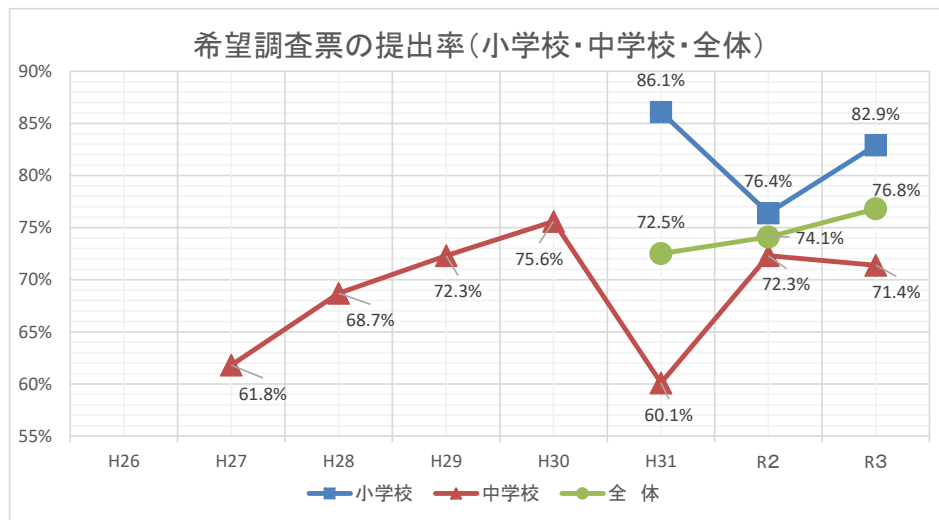
(分析)

中学校では、平成27年度入学から令和3年度入学までの7年間に於いて、学校選択制で通学区域外を選択した割合が平成27年度と平成29年度を除く5年間で10%を超え、7年間の平均は10.3%であった。一方、小学校では、実施初年度の平成31年度が9.0%、令和元年度には6.5%と減少したが、令和3年度が9.2%となり、3年間の平均は8.2%となった。また、小・中学校を比較すると、小学校入学時より中学校入学時の方が、学校選択制で通学区域外を選択した割合が高かった。

③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



(分析)

中学校では、平成27年度の61.8%から平成30年度の75.6%まで増加傾向にあったが、平成31年度に60.1%と希望調査票の提出率が大幅に下がり、その後の2年間は70%超に回復し、7年間の平均は68.9%となった。一方、小学校では、実施初年度の平成31年度が86.1%、令和2年度には76.4%と減少したが、令和3年度が82.9%となり、3年間の平均は81.7%となった。また、小中学校を比較すると、小学校入学時の方が希望調査票の提出した割合が高かった。

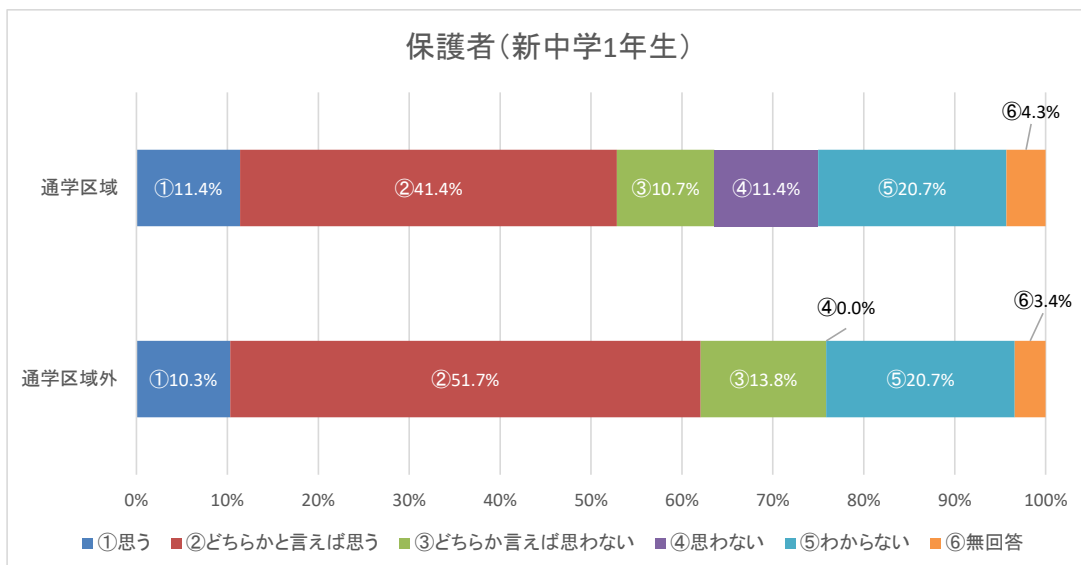
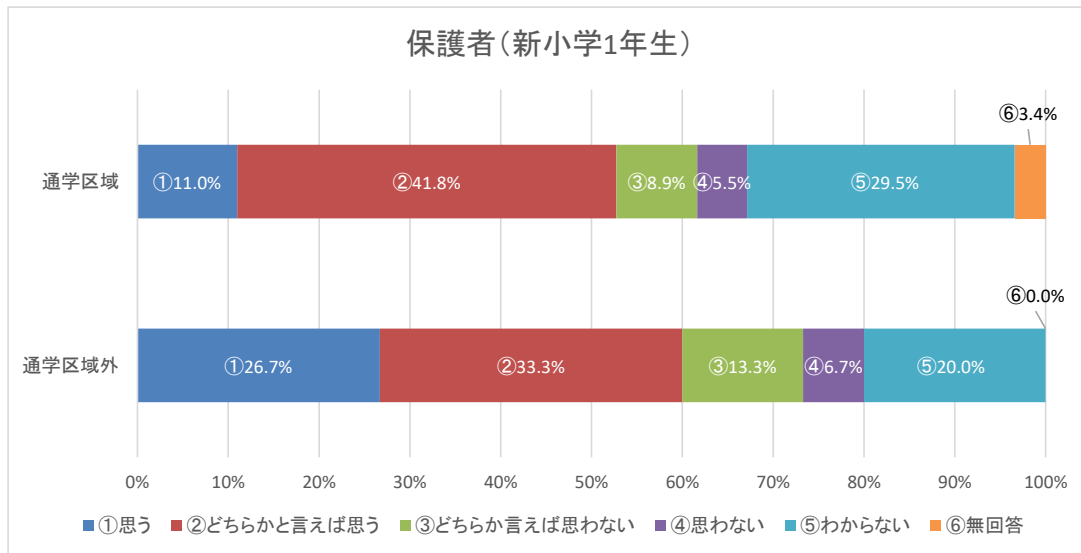
【視点②総括】

肯定的に受け止めている保護者の方が多く、その中でも、小学校よりも中学校の保護者の方が、また、通学区域選択より通学区域外選択の保護者の方が、より肯定的に受け止めている結果となった。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問19、保護者アンケート(新中学1年生):問23】<1つだけ回答>

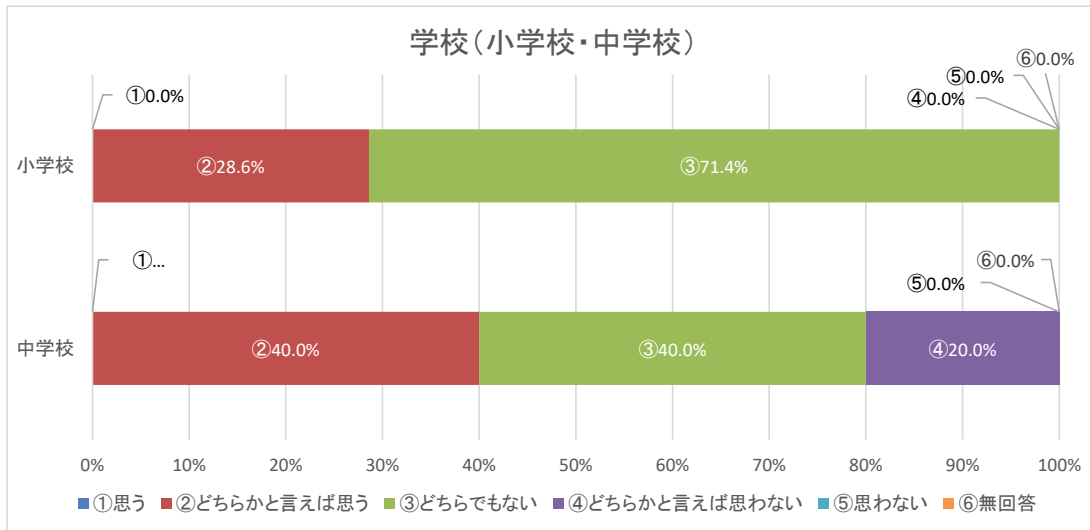


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答した割合が、通学区域を選択した新小学1年生保護者で52.8%、新中学1年生保護者で52.8%、通学区域外を選択した新小学1年生保護者60.0%、新中学生1年生保護者で62.0%となっており、小中学校及び通学区域・通学区域外を選択のすべてにおいて、「わからない」も20%程度あったが、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答を上回った。また、通学区域を選択した場合に比べ、通学区域外を選択した方が、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思っている割合が高かった。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査:問1】<1つだけ回答>



(分析)

小学校では、「どちらかと言えば思う」の割合が28.6%、「どちらでもない」の割合が71.4%となり、肯定的な回答もあったが、大半が「どちらでもない」の回答となった。中学校では、「どちらかと言えば思う」の割合が40.0%。「どちらでもない」の割合が40.0%、「どちらかと言えば思わない」の割合が20.0%となり、否定的な回答もあった。なお、小中学校とも「思う」「思わない」の回答はなかった。

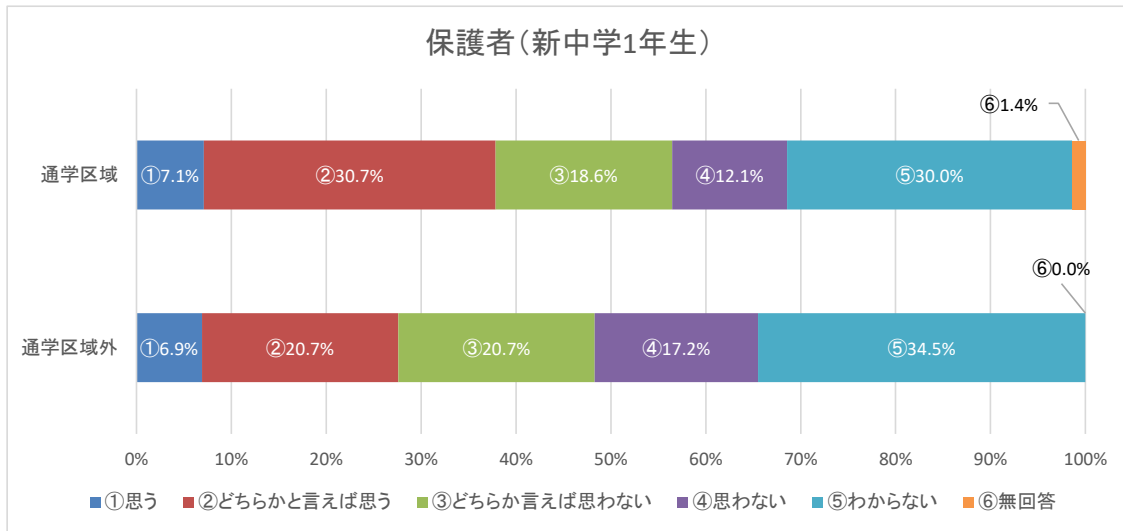
【視点③総括】

「学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。」の設問に、大半の保護者は肯定的に受け止めており、その中で、小・中学校とも通学区域選択より通学区域外選択の保護者の方が、より肯定的に受け止めている結果となった。一方、小・中学校では、「どちらでもない」の回答が多く、学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つ理由とは考えていないことが伺える。

【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問24] <1つだけ回答>

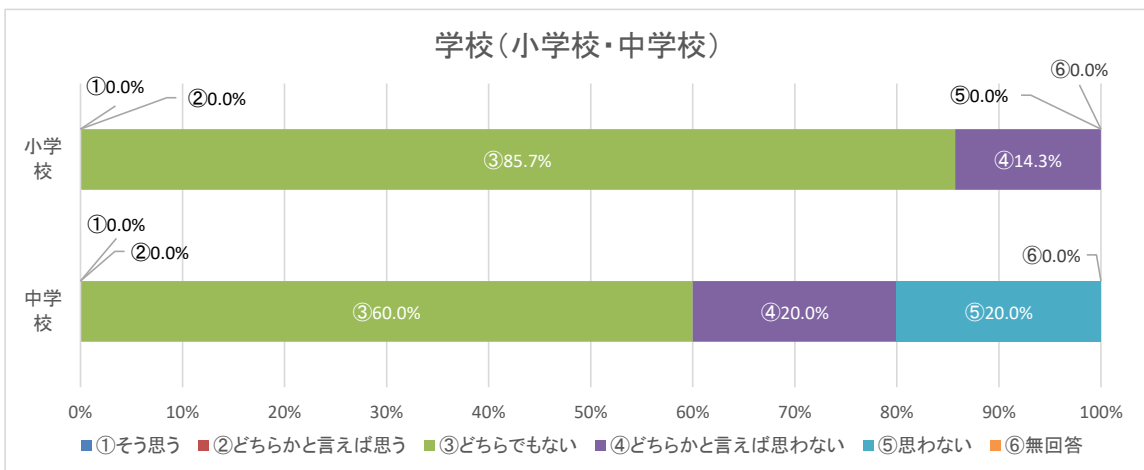


(分析)

通学区域を選択した保護者の場合、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答は37.8%、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答は30.7%となり、肯定的な回答の割合が高くなった。一方で、通学区域外を選択した保護者の場合、肯定的な回答は27.6%、否定的な回答は37.9%となり、否定的な回答の割合が高くなり、通学区域・区域外の選択により、特色ある学校づくりの進捗の捉え方が異なる結果となった。また、「わからない」の回答が、通学区域選択で30.0%、通学区域外で34.5%と割合が高くなっており、特色ある学校づくりを学校選択制と結びつけている保護者は少ない。

②学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査:問3] <1つだけ回答>



(分析)

「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が、小学校では14.3%、中学校では40.0%あったが、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答は、小・中学校ともなく、「どちらでもない」の回答が、小学校で85.7%、中学校で60.0%と大半を占め、学校では、学校選択制によって特色ある学校づくりが進んだと思っていないことが伺える。

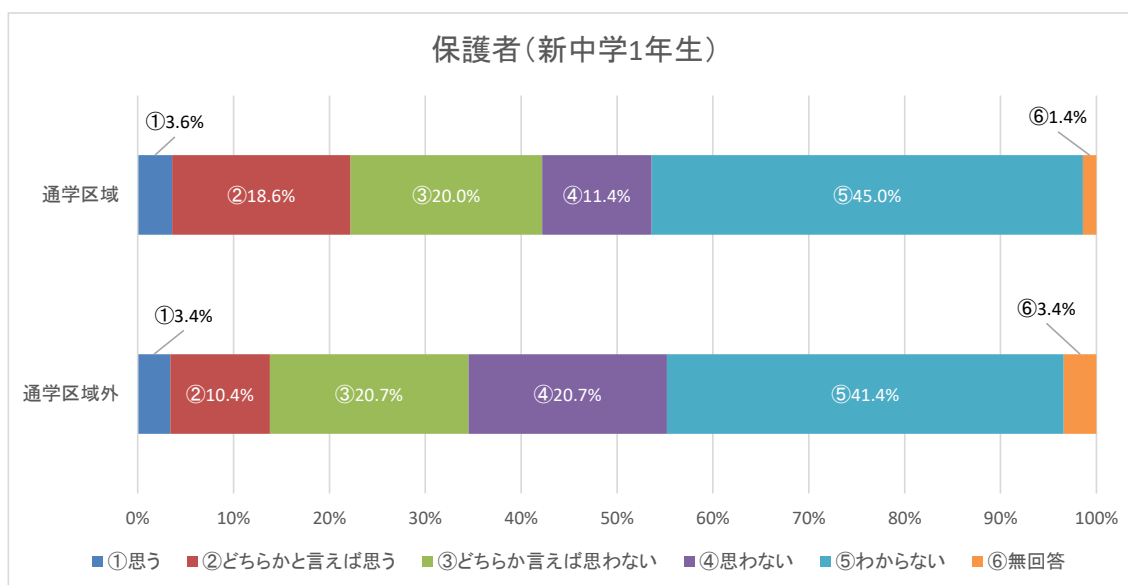
【視点④総括】

「学校選択制によって特色ある学校づくりが進んだと思いますか。」の設問に、保護者(中学校のみ)では、通学区域選択で肯定的な回答が多く、通学区域外選択では否定的な回答が多くあり、通学区域・通学区域外の選択により、受け止め方が異なる結果となったが、「わからない」の回答も多くあった。一方、小・中学校では、大半が「どちらでもない」の回答であった。学校選択制によって特色ある学校づくりが進んだと保護者・学校とも思っていないことが伺える。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み(授業参観、学校公開など)が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問25]<1つだけ回答>

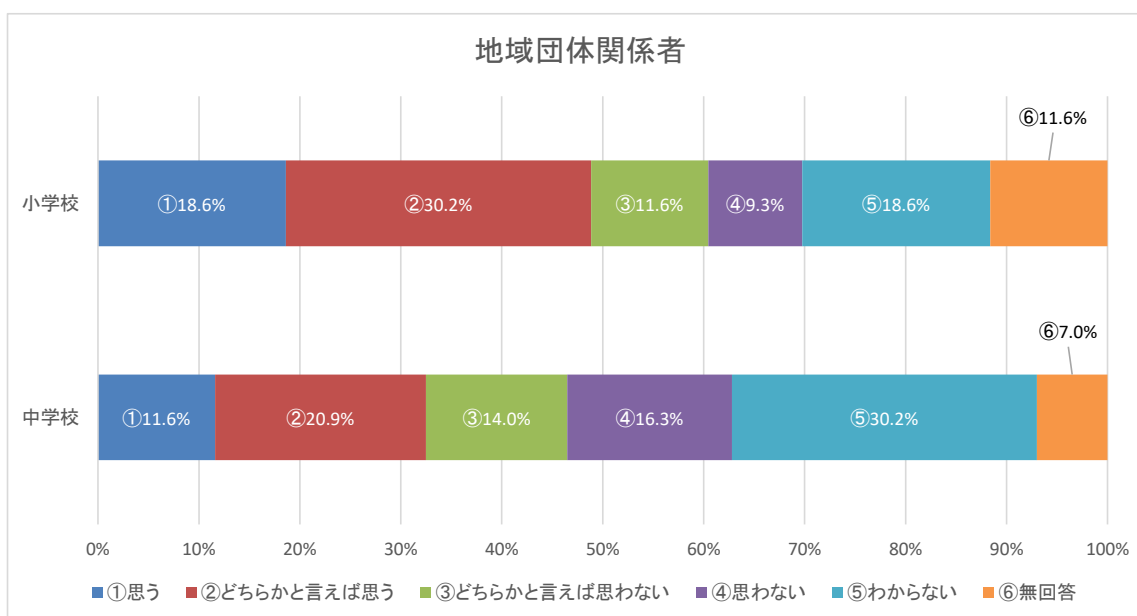


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答が、通学区域を選択した保護者で22.2%、通学区域外を選択した保護者で13.8%となっているのに対して、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答が、通学区域で56.4%、通学区域外で62.1%となっており、否定的な回答が通学区域・区域外とも上回った。また、「わからない」と回答した割合が、通学区域選択で45.0%、通学区域外選択で41.4%と最も高く、保護者の多くは学校選択制によって学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組みが充実してきたとは思っていないことが伺える。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み(授業参観、学校公開等)が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者:問1]<1つだけ回答>

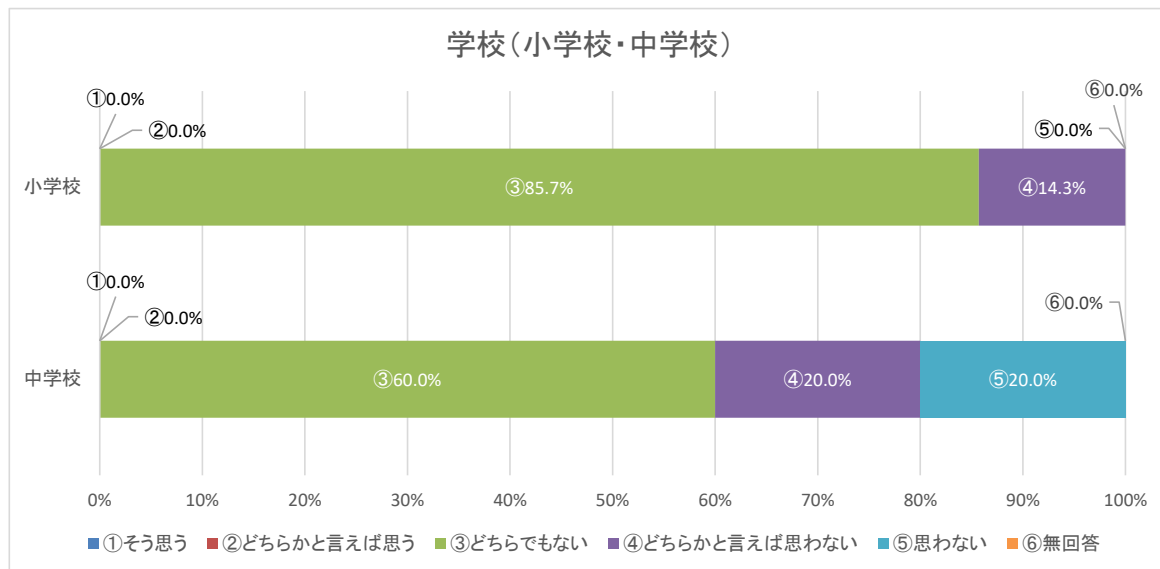


(分析)

小学校の場合、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が20.9%に対して、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答の割合が48.8%と高くなった。一方、中学校の場合、肯定的な回答の割合が32.5%、否定的な回答の割合が30.3%、「わからない」の回答の割合が30.2%となり、回答が割れた。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査:問5】<1つだけ回答>

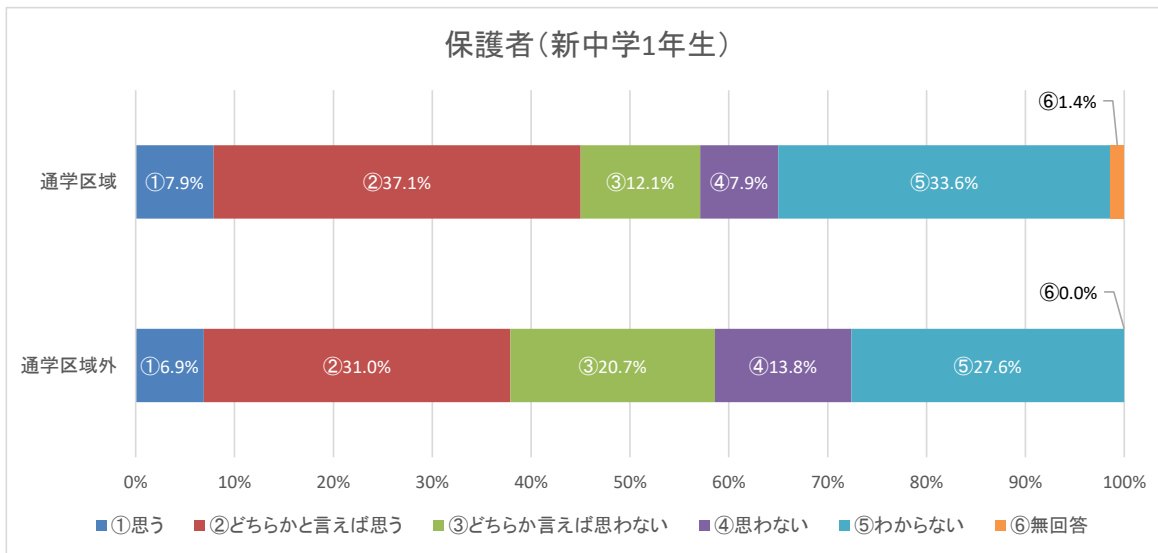


（分析）

「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が、小学校では14.3%、中学校では40.0%あったが、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答は、小・中学校ともなく、「どちらでもない」の回答が、小学校で85.7%、中学校で60.0%と大半を占め、学校では、学校選択制により保護者や地域住民の参加が進むような取り組みが充実してきたとっていないことが伺える。

④学校選択制によって、学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問26】<1つだけ回答>

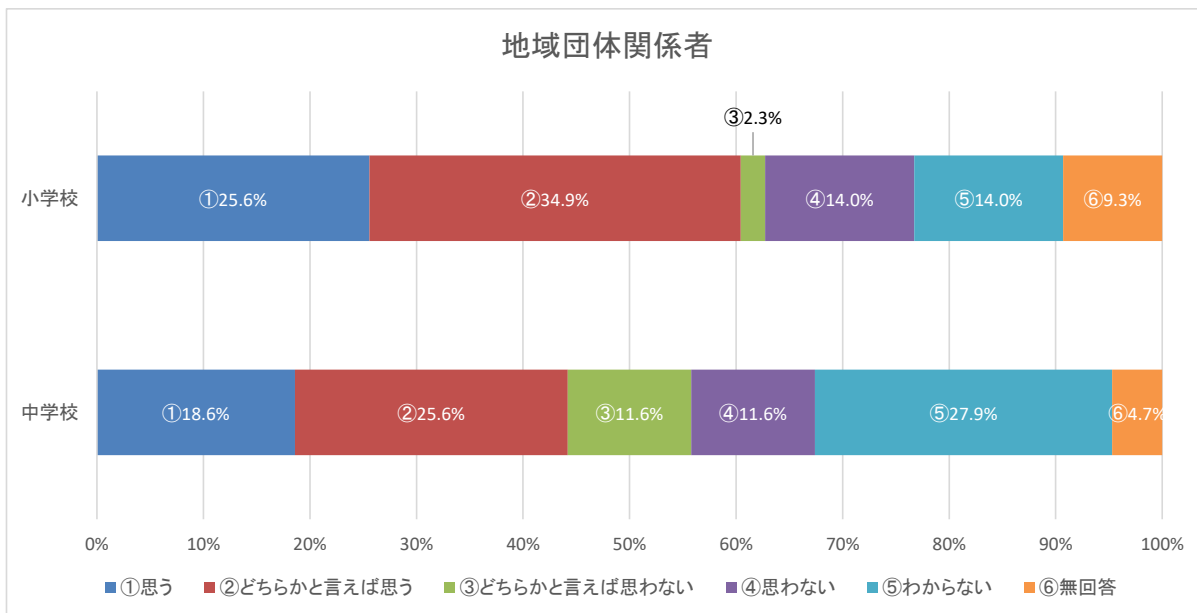


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答の割合が、通学区域を選択した保護者では45.0%、通学区域外を選択した保護者では37.9%となったのに対して、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が、通学区域選択で20.0%、通学区域外選択で34.5%となり、どちらも肯定的な回答が多かったが、「わからない」と回答した割合が、通学区域選択で33.6%、通学区域外選択で27.6%と高く、学校における情報発信の充実が学校選択制と結びつける保護者の方が少ない。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者:問2】<1つだけ回答>

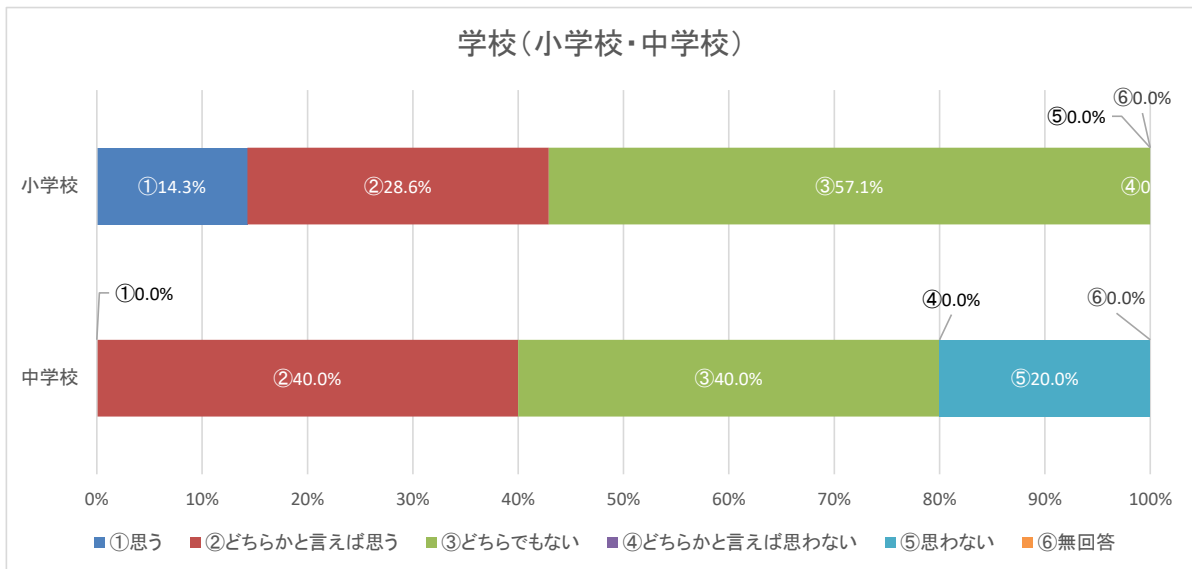


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答が、小学校で60.5%、中学校で44.2%となっているのに対して、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答が、小学校で16.3%、中学校で23.2%となり、どちらも肯定的な回答が否定的な回答を上回ったが、中学校では「わからない」と回答した割合が27.9%と高く、中学校では学校における情報発信の充実が学校選択制と結びつける地域団体関係者の方が少ない。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査:問7】<1つだけ回答>



(分析)

小学校では、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答の割合が42.9%、その他では「どちらでもない」の回答の割合が57.1%となった。一方、中学校では、「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答の割合が40.0%、「思わない」の否定的な回答の割合が20.0%、「どちらでもない」の回答の割合が40.0%となった。学校選択制によって学校における情報発信の充実を約6割の学校が思っていないことが伺える。

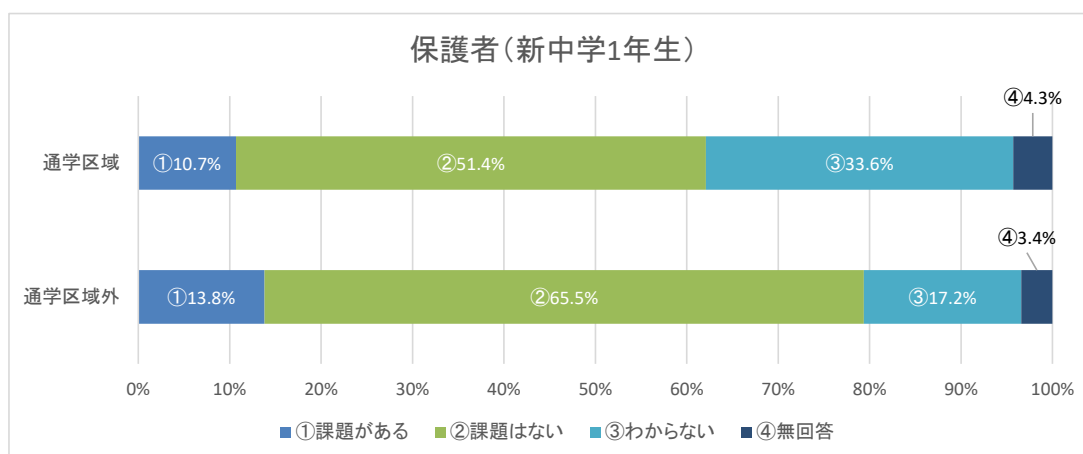
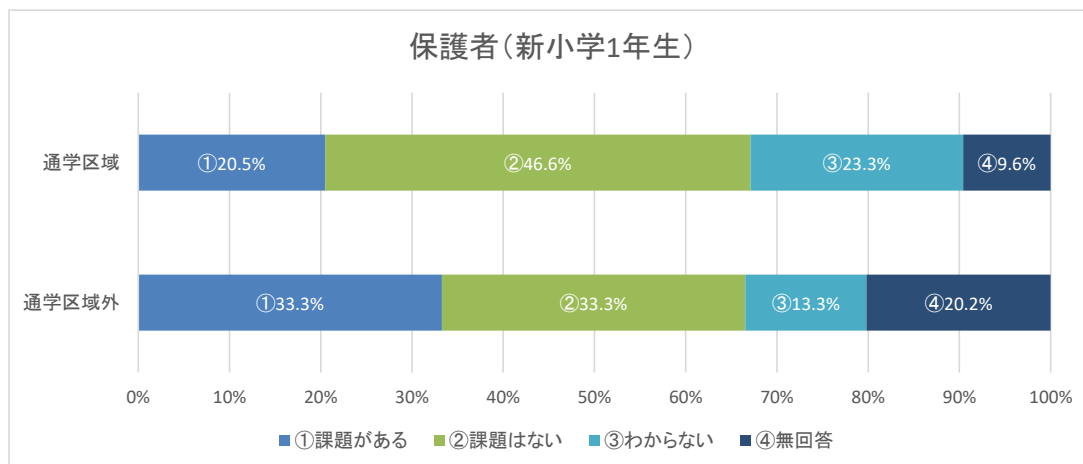
【視点⑥総括】

学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組みの充実については、保護者と学校では否定的な回答が、地域団体関係者では肯定的な回答がそれぞれ上回ったが、いずれも「わからない」「どちらでもない」の回答が多かった。また、学校の情報発信の充実については、保護者・地域団体関係者・学校とも肯定的な回答が否定的な回答を上回ったが、こちらも「わからない」または「どちらでもない」の回答が多かった。学校選択制によって開かれた学校づくりが進んだと思うには至っていないことが伺える。

【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問15、保護者アンケート(新中学1年生):問15】<1つだけ回答>



【具体的な課題及び改善のアイデア】

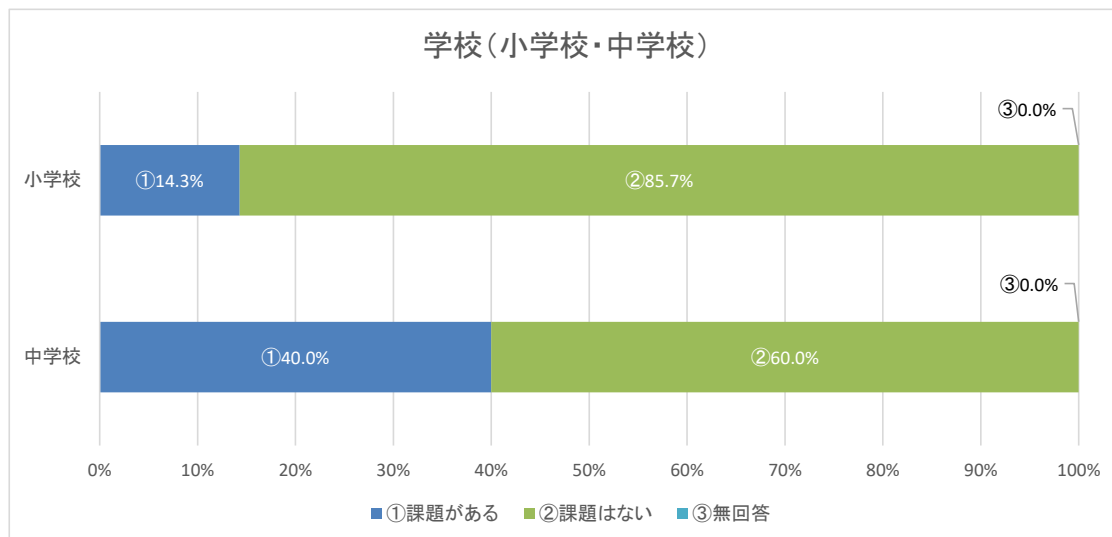
- 「課題がある」と回答した新小学1年生保護者
 - ・不審者情報なども聞くので、見守りの方に通学路に立ってもらえると安心と思う事がある。
 - ・集団登校がないので低学年の頃は少し心配になる。集団登校あってほしい。
 - ・スクールゾーンの路面標示が消えている。車の多い道に歩道の白い線がない。
- 「課題がある」と回答した新中学1年生保護者
 - ・1人で通学・帰宅時の安全課題。変な人に声をかけられた・どこに逃げ入れれば良いかわからず不安・地域の方々の助けが必要。
 - ・見通しの悪い道路やまがり角に反射鏡などの設置や夜の街灯の設置。
 - ・熱中症などがすごく心配。家から遠いので、夏場の通学に何か対策があればと思う。日傘、自転車通学等。

(分析)

小学校の通学区域外選択では、「課題がある」と「課題はない」は同数となったが、それ以外では「課題はない」の回答の方が多かった。「課題がある」と回答した割合は、小学校では通学区域選択で20.5%、通学区域外選択で33.3%、中学校では通学区域選択で10.7%、通学区域外選択で13.8%で、小・中学校の保護者とも通学区域選択より通学区域外選択の方が、また、中学校より小学校の方が「課題がある」と回答した割合が高い結果となった。なお、「課題がある」と回答した中で、通学路の状況や治安に関することを課題をあげる保護者が多かった。

②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査:問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】

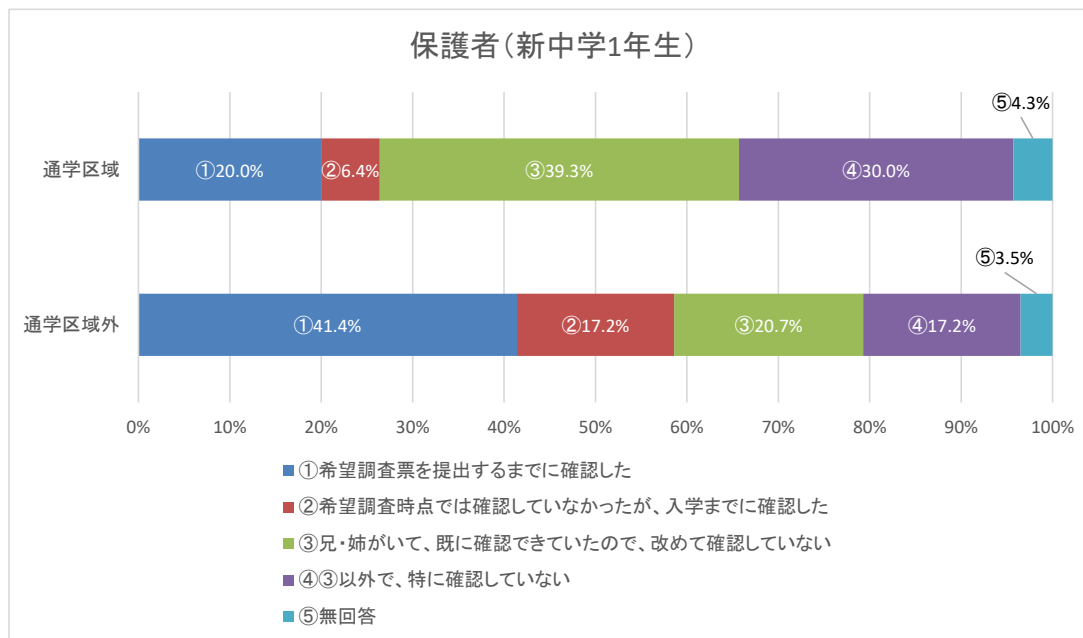
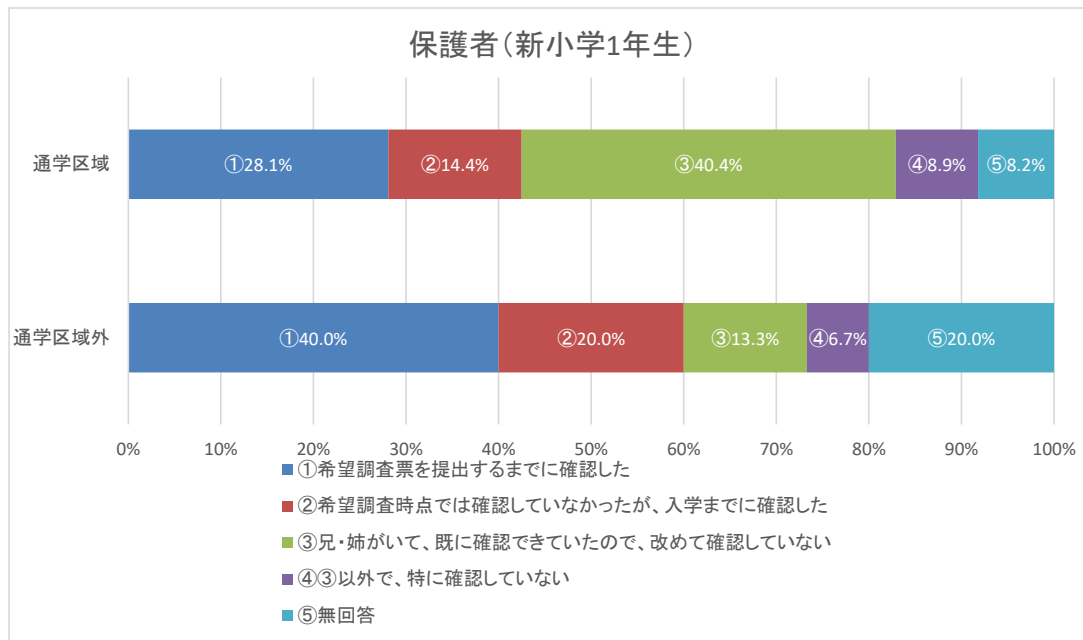
- 自転車通学をしている生徒を指導することがある。(学校選択制により本校に在籍している生徒)
- 他地域からの自転車通学。地域の見守りのない所からの通学は発見の遅れの可能性。
- 近隣で、事件や不審者情報等があると、生活指導部を中心に校区巡視を行うが、人員の関係で校区外までは巡視できず、選択制により校区外より通学してくる生徒の安全が守りきれない。

(分析)

「課題がある」と回答した割合が、小学校で14.3%。中学校で40.0%となっており、「課題はない」と回答した割合の方が、小・中学校とも上回っていた。課題としては、学校選択制により通学区域外を選択し、通学距離が長くなったことで禁止されている自転車通学をする場合や通学区域が広がることで安全確認ができない事例があった。

③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問6、保護者アンケート(新中学1年生):問6】<1つだけ回答>



(分析)

通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等の確認について、兄・姉がいて確認済みも合わせると、小学校では通学区域選択で82.9%、通学区域外選択で73.3%、中学校では通学区域選択で65.3%、通学区域外選択で82.2%と多くの保護者が子どもの入学前までに通学路の確認を行っている状況にあった。また、「希望調査票を提出する前までに確認した」の回答の割合について、小学校では通学区域選択で28.1%、通学区域外選択で40.0%、中学校では通学区域選択で20.0%、通学区域外選択で42.9%となっており、小・中学校とも通学区域外選択の保護者の方が高い割合であった。

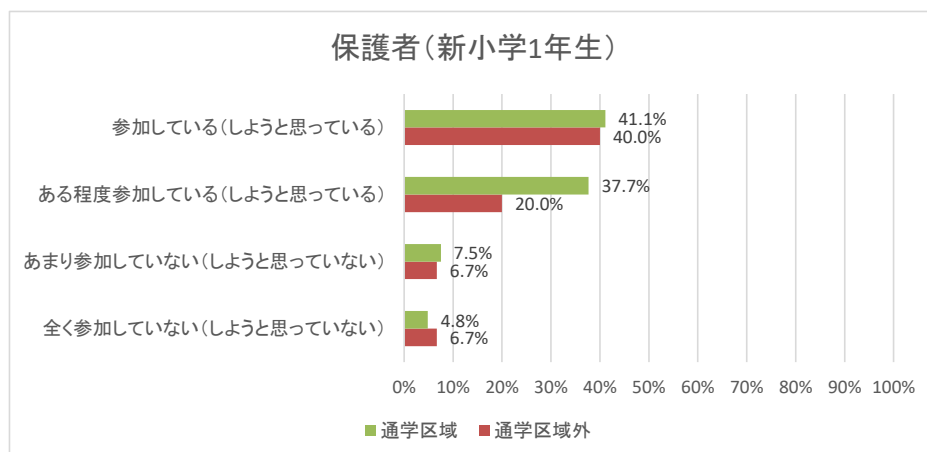
【視点◎総括】

通学路の安全については、「課題がない」の回答の方が多かったが、保護者から通学路の状況や治安等、多くの課題が報告され、また、通学路の確認をしたと回答した保護者は多く、通学路の安全確保が重要視されていることが伺える。

【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問13、保護者アンケート(新中学1年生):問13】<1つだけ回答>



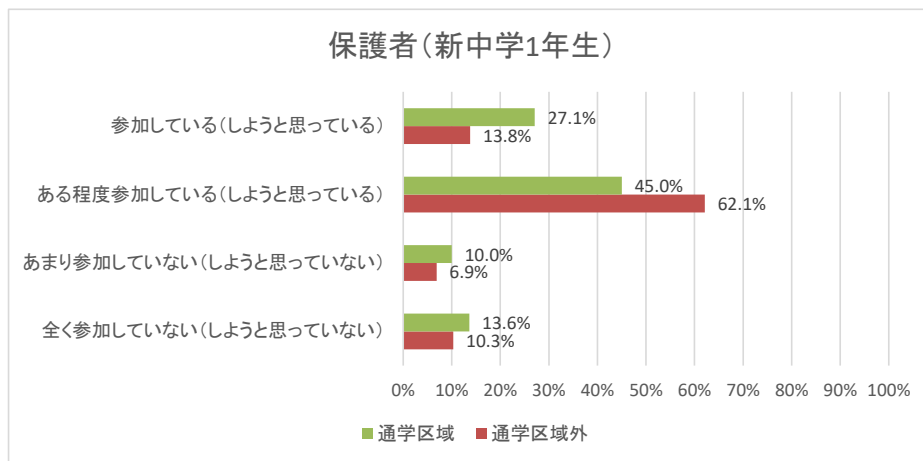
【理由】

- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者
 - ・先生方(学校側)との情報共有や交換、意見交換の場となると思うから。PTAなどの活動を通じて、積極的に子どもの成長や健全育成に関われると思う。
 - ・やはり子供がどう過ごしているのか気になるし、それ以外の友人・先生・保護者などの雰囲気も気になるので。
 - ・子供が仲良くしている同級生の保護者の方や、お世話になっている先生方とも知り合っておきたい。

- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり程度参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者
 - ・時間に余裕がない。
 - ・仕事が忙しい。コロナで今はさげたい。
 - ・学校行事は子の成長を見れるチャンスなので参加するが、その他は、下に弟妹がいたり仕事があったりでむずかしい。あとは交流が苦手。

(分析)

「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で78.8%、通学区域外選択で60.0%で高い割合となったが、その中でも通学区域選択の方が参加する割合が高い結果となった。一方、「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」は、通学区域選択で12.3%、通学区域外選択で13.4%と低い割合となり、その中でも通学区域外選択の方が参加しない割合が高く、その保護者の多くは、仕事等で時間がないといった理由であった。



【理由】

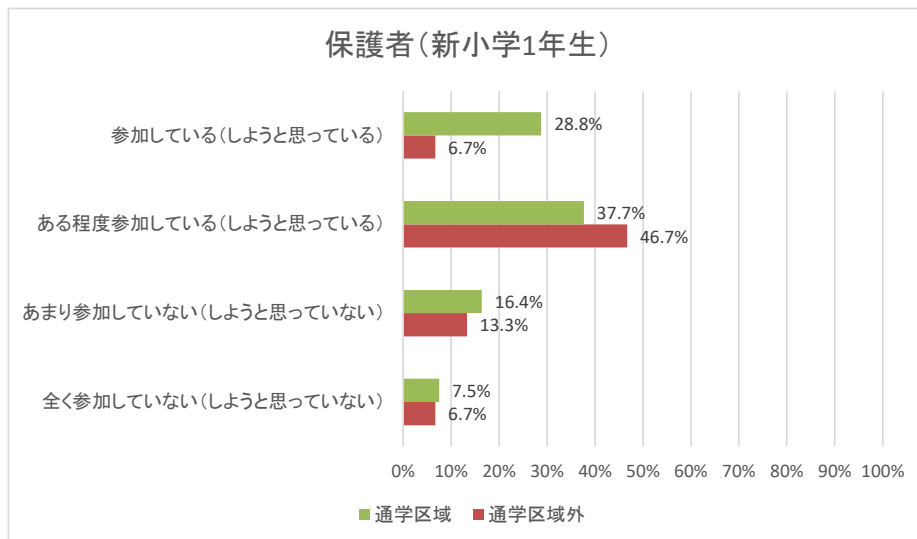
- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者
 - ・子どもの様子を見たいから。
 - ・PTA活動に参加してる
 - ・子どもの通う学校に興味があるから。又、不安な部分もあるから。

- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり程度参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者
 - ・小学校はある程度参加していたが、中学校は逆に親が来るのをいやがるから。
 - ・PTA活動参加したくない。
 - ・平日昼間仕事をしていると休んでまでの参加はきびしい。

(分析)
 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で72.1%、通学区域外選択で75.9%で高い割合となったが、その中でも通学区域外選択の方が参加する割合が高い結果となった。一方、「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」は、通学区域選択で23.6%、通学区域外選択で17.2%と低い割合となり、その中でも通学区域選択の方が参加しない割合が高く、その保護者の多くは、仕事等で時間がないといった理由であった。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問14、保護者アンケート(新中学1年生):問14】<1つだけ回答>

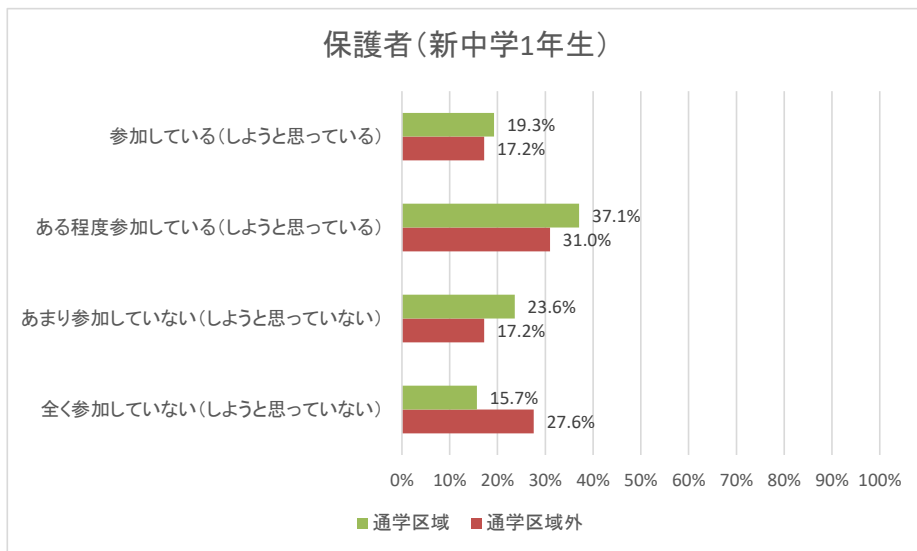


【理由】

- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者
 - ・色々な経験をさせてあげたいと思っているため。
 - ・これから長く住んでいく地域の行事は、大切だと思うから。
 - ・子育てをしていく上で、地域のつながりも大事だと思うから。
- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり程度参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者
 - ・情報がわからない、どうやって参加するのか知らない。
 - ・下の子が小さく、私が積極的ではないので。
 - ・両親が地域の出身でない為なじみがない

(分析)

「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で66.5%、通学区域外選択で53.4%と高い割合となったが、その中では通学区域選択の方が参加する割合が高い結果となった。一方、「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で23.9%、通学区域外選択で20.0%で、その中では通学区域選択の方が参加しない割合が高く、参加していない回答の主な理由は、行事等の情報や参加方法がわからないといった内容であった。



【理由】

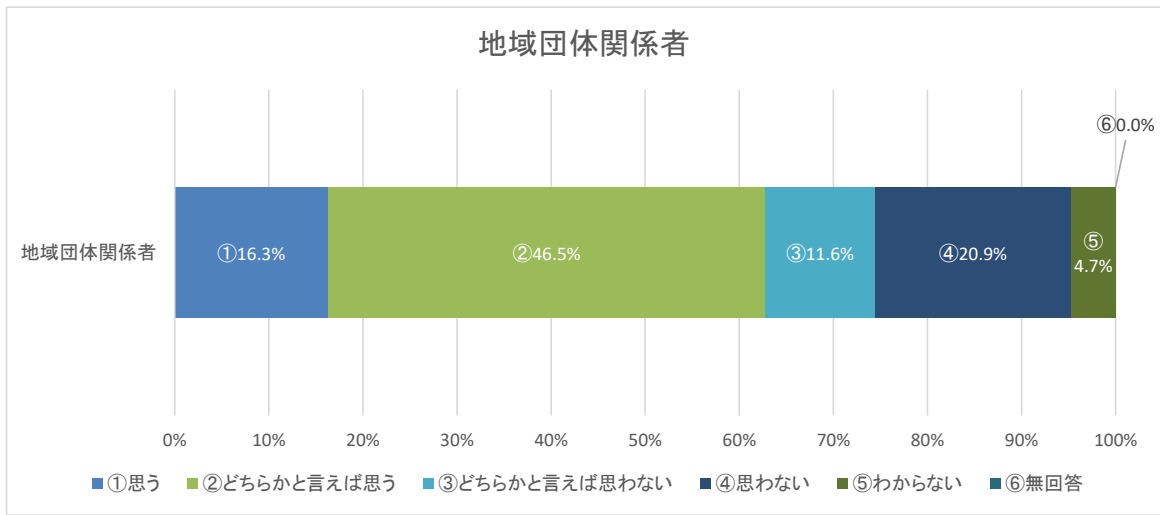
- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者
 - ・父が参加しているから。
 - ・地域の人や友達とコミュニケーションがとれるから。
 - ・子育てには地域とのかかわりも大切だと思うから。

- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり程度参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者
 - ・マンションが町会に入っていない(ので情報も少ない)。
 - ・最優先として、家族と過ごす趣味の時間があり、地域行事に重きを置いていない為。
 - ・地域の行事に興味がない為。

(分析)
 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で56.4%、通学区域外選択で48.2%で、その中では通学区域選択の方が参加する割合が高い結果となった。一方、「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」と回答した保護者の割合は、通学区域選択で48.2%、通学区域外選択で39.3%で、その中では通学区域選択の方が参加しない割合が高い結果となった。参加していない回答の主な理由は、地域の行事に興味がないといった内容であった。

③「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどう思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問3】 <1つだけ回答>

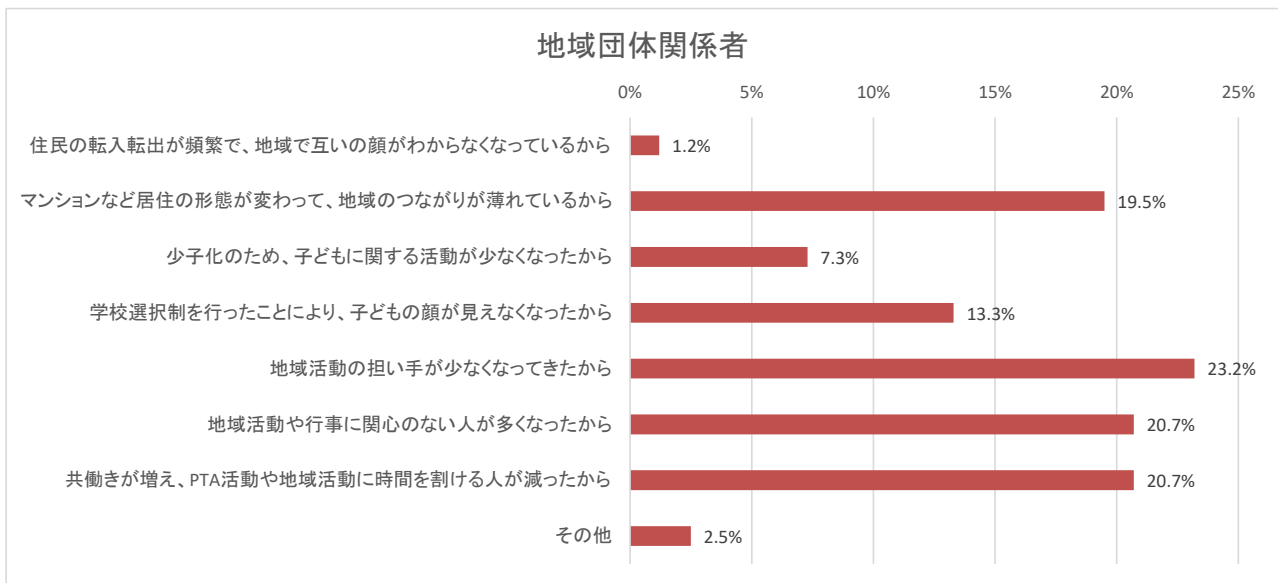


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答をした割合が62.8%、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答をした割合が32.5%となり、「地域の繋がりが薄くなっている」と思っている回答が思っていない回答の約2倍、全体の6割超の回答となった。

④上記の設問で「思う」「どちらかと言えば思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。それは何が原因だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問4】 <3つまで回答可>



【その他】

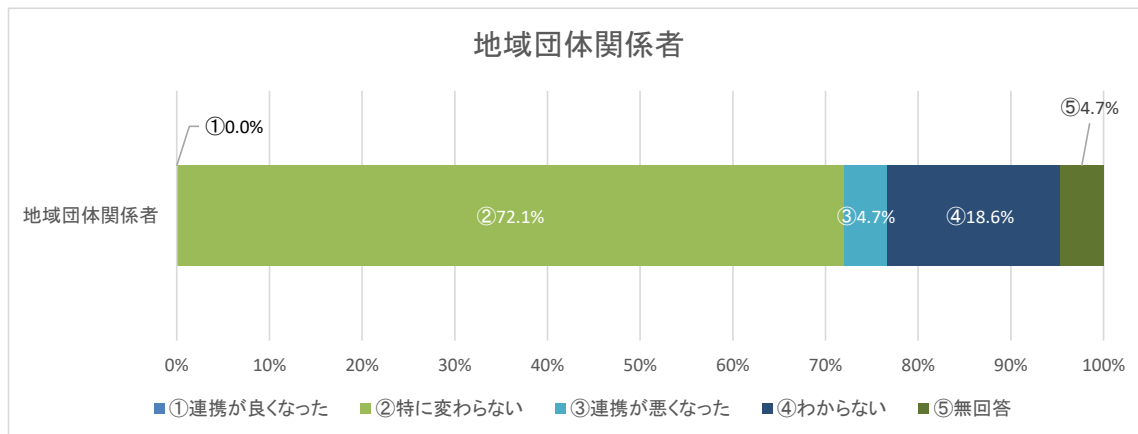
- ・子供たちを主にした行事が少ない。
- ・その気がない人が増えたから。

(分析)

高い割合の回答は、「地域活動の担い手が少なくなってきたから」が23.2%、「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」が20.7%、「共働きが増え、PTA活動や地域活動に時間を割ける人が減ったから」が20.7%、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」が20.3%となった。「学校選択制を行ったことにより、子どもの顔が見えなくなったから」は13.3%となっており、「地域の繋がりが薄くなっている」の理由としては低い割合となった。

⑤学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート:問5】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

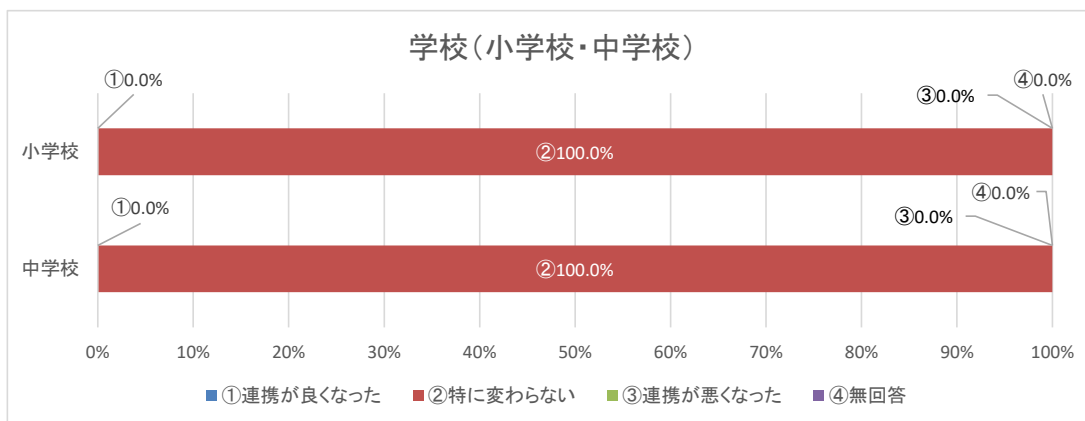
- ・イベント等の参加者に特に変化がないので。(②特に変わらない)
- ・見守りしていた子どもの様子がちがう学校へ行くことによりわからなくなった。(③連携が悪くなった)
- ・身近に選択制を考え利用した人がいなかった。(④わからない)

(分析)

「特にかわらない」と回答した割合が72.1%と最も高く、次に回答の多い「わからない」が18.6%あり、あわせて9割超の方が、地域と学校の連携に学校選択制の影響を感じていないことが伺える。また、「連携が良くなった」と思う方はいなかった。一方、少数ではあるが「連携が悪くなった」と回答した割合は4.7%あった。

⑥学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査:問11】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

- ・大半が地域に住む児童なので今の所は連絡面で大きな影響はない。

(分析)

全校が「特に変わらない」との回答であり、学校選択制の導入により、学校と地域、保護者の連携に影響がないことが伺える。

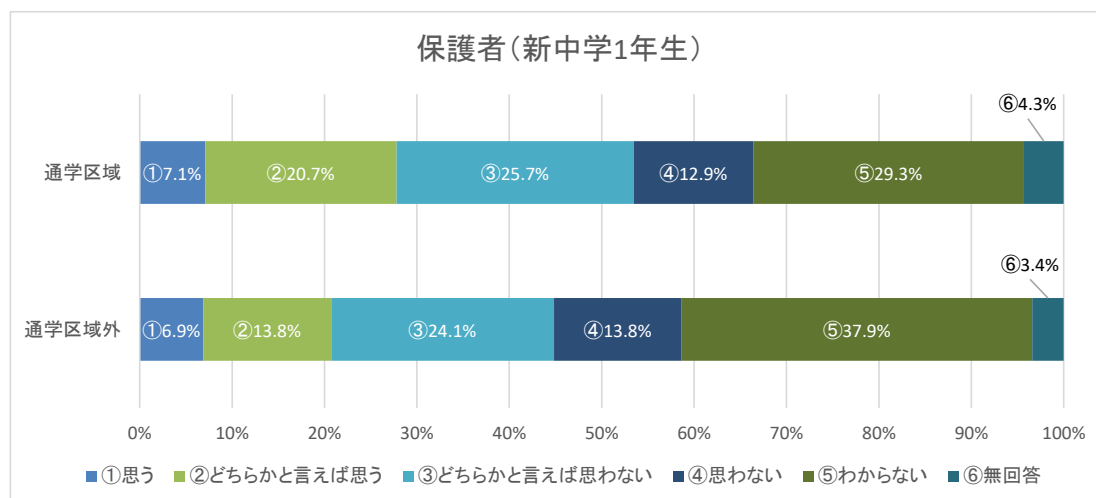
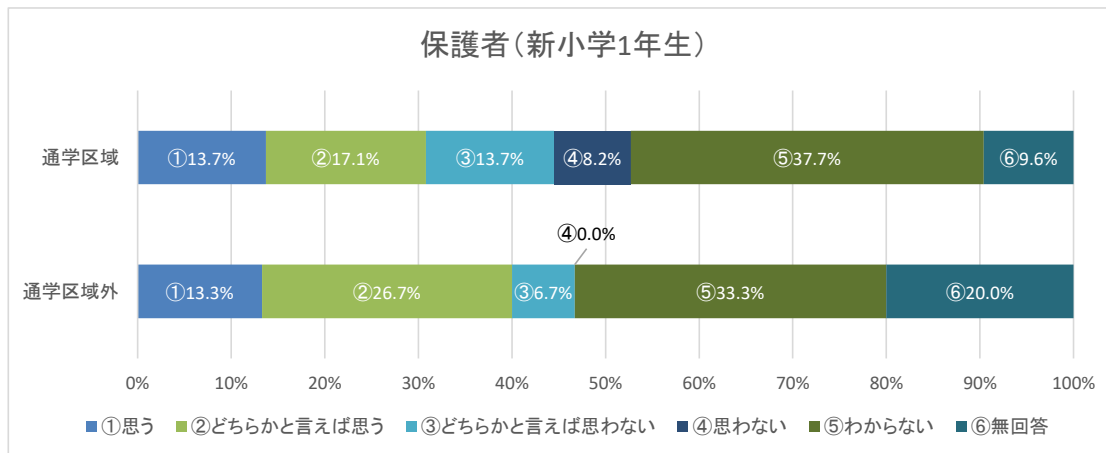
【視点⑦総括】

保護者では、学校行事・PTA活動・地域行事に参加することに肯定的な回答が多く、また、地域団体関係者では、地域の繋がりが薄くなってきているとの回答が多かった。しかし、地域団体関係者や学校では、学校選択制の導入が学校と地域、保護者の連携に影響があるとは考えていない。

【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問16、保護者アンケート(新中学1年生):問16]<1つだけ回答>



【具体的な風評の内容】

- 「思う」「どちらかと言えば思う」の回答した新小学1年生保護者
 - ・通学している生徒の様子(騒がしい子が多い等)
 - ・学級崩壊の話はよく聞く。
 - ・いじめが多い、良い先生・悪い先生がいる等。
- 「思う」「どちらかと言えば思う」の回答した新中学1年生保護者
 - ・部活動の様子や、先生方の校則に対する指導のあり方など。
 - ・いじめ、薬物、喫煙
 - ・生徒の風紀等

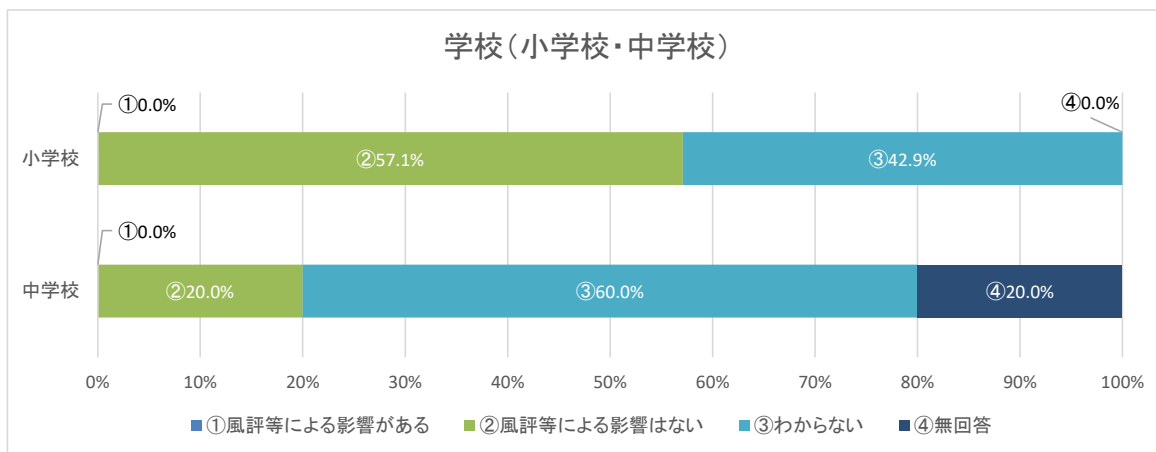
(分析)

新小学1年生保護者では、「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答をした割合が通学区域選択で30.8%、通学区域外選択で40.5%、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答の割合が通学区域選択で21.9%、通学区域外選択で6.7%となった。一方、新中学1年生保護者では、肯定的な回答の割合が通学区域選択で27.8%、通学区域外選択で20.7%、否定的な回答の割合が通学区域選択で38.6%、通学区域外選択で37.9%となった。

新小学1年生保護者では、通学区域・通学区域外選択とも「思う」「どちらかと言えば思う」の肯定的な回答をした割合が、「思わない」「どちらかと言えば思わない」の否定的な回答をした割合を上回ったが、新中学1年生保護者では、通学区域・通学区域外選択とも否定的な回答が肯定的な回答を上回った。小・中学校及び通学区域・通学区域外選択とも約3割が「わからない」の回答があるが、風評(うわさ)等による学校選択は、中学校入学時より小学校入学時の方が影響がある結果となった。

②区や学校が提供する情報ではない風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査:問12】<1つだけ回答>



(分析)

「風評等による影響はない」の回答が、小学校で57.1%、中学校で20.0%あった。「わからない」の回答が、小学校で42.9%、中学校で60.0%あるが、小・中学校とも「風評等による影響がある」の回答はなく、小・中学校とも風評等による学校選択によって、学校への影響はないことが伺える。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったですか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問17、保護者アンケート(新中学1年生):問17】<自由記述>

○新小学1年生保護者

- ・実際に通われている保護者の口コミ
- ・学費など(1年間の必要な金額)。
- ・集団登校・下校の有無、見守り隊の有無、他校との合併の予定
- ・学級崩壊やいじめの有無
- ・各校の支援学級の情報が欲しかった。

○新中学1年生保護者

- ・特別支援のとりくみ、生徒会の取りくみ、生徒の学校に対する感想、など
- ・制服(写真)は提供されているが、くつやくつ下の色、肌着の色等、細かい校則を入学前に知りたかった。
- ・部活動の活動時間や、公式戦や遠征(県外、宿泊の有無)。
- ・制服や体操服等、初期費用としてかかる金額の一覧
- ・口コミ。卒業生&在校生の生の声。保護者からの評判。

(分析)

小・中学校のとも、児童・生徒やその保護者の意見や感想等の情報があれば良かったとの回答が多かった。また、小学校では集団での登下校の有無や学級崩壊、いじめの情報が、中学校では校則や部活動の情報があれば良かったとの回答があった。

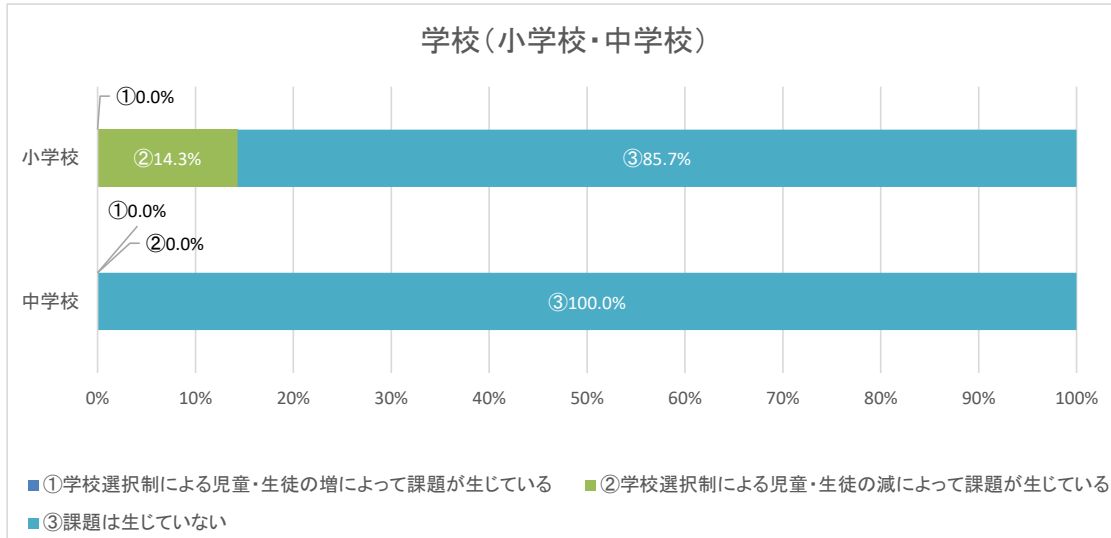
【視点⑧総括】

小学校の保護者では肯定的、中学校の保護者では否定的に受け止める回答が多く、学校選択に際しては、小学校入学時の方が中学校入学時より風評(うわさ)等の影響を多く受けた結果となった。一方、小・中学校とも「風評等による影響がある」との回答はなかった。

【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査:問13】<1つだけ回答>



【理由】

- ・現2年生は選択してもらえないケースが多く、学級数が1クラスになってしまった。本来であれば2クラスになるだけの人数がいた。
- ・現在は課題は生じていないが、児童数が減少し学級数に影響する場合は選択制による学校減が予想される。

(分析)

小学校で85.7%、中学校では全校が「課題は生じていない」との回答があったが、小学校では「学校選択制による児童・生徒の減によって課題が生じている」との回答があった。なお、小・中学校とも「学校選択制による児童・生徒の増によって課題が生じている」の回答はなかった。

【視点⑨総括】

ほとんどの小・中学校で「課題は生じていない」との回答であったが、小学校で「学校選択制による児童・生徒の減によって課題が生じている」の回答があり、学校選択制による児童数減で1クラスになる課題があがった。なお、「児童・生徒の増によって課題が生じている」の回答はなく、今後も児童・生徒の減による影響が課題と考えられていることが伺える。